

ベネズエラの最新動向(12月1日~12月15日)

I. 政治・経済

1. 国民投票後の政治体制

- 12月2日(日)の国民投票の結果は、チャベス大統領反対派の勝利で終わったが、チャベス支持派・反対派は共に、2008年10月に行われる予定の州知事・市長選挙に向けて準備に入った。
- 反対派の課題:
 - (1) チャベスが打ち出す社会主義とチャベス以前の歯止めのない資本主義との間の中道路線を反映した政策作り
 - (2) ベネズエラが抱える諸問題の解決策の提案
 - (3) チャベスに対抗し得る指導力のあるリーダーの確立
- 支持派の課題:
 - (1) 今回国民投票で棄権した支持者の動員
 - (2) United Socialist Party of Venezuela (PSUV)の地盤を固め、選挙活動の戦力とする
 - (3) 国民の信用回復を図るための経済・社会政策の作成

2. 12月発表のインフレ率は年率20%以上に

- ベネズエラ中銀の発表によると、11月のインフレ率は前月比で4.4%上昇し、年率では20.7%となった。
- ベネズエラ中銀はインフレ対策の一つとして、普通預金の利率を8%から10%に引き上げると発表。定期預金の利率に関しても、1ヶ月物が10%から11%へ、2ヶ月物は11%から12%へ引き上げた。
- 但し、この程度の対策ではインフレを抑えるのは困難との見通しもある。

II. 石油その他の資源セクター

1. PDVSA・Petrobras 製油所運営の合併企業設立に合意

- 12月13日、PDVSAとブラジルのPetrobrasは、ブラジル北西部のAbreu E Lima製油所の運営を行う合併会社の設立につき合意。権益保有率はPetrobrasが60%、PDVSAが40%。
- この製油所は20万b/dの精製能力を有する。PDVSAは、2年後に予定しているオリノコのCarabobo 1 blockからの原油を、10万b/d精製する契約を交わした。
- 本製油所の建設コストは40.5億ドルで、2010年後半には操業開始する予定。

2. 天然ガスも国有化へ

- 12月4日、国民議会のエネルギー・鉱山委員会会長、Angel Rodriguez 氏は、ベネズエラ政府が天然ガス合弁事業の国有化を推進することを表明。
- 石油同様、国の権益比率を増やす方向で交渉が進められている模様。
- ベネズエラは、ラ米で最大の天然ガス埋蔵量を有している(152 兆立方フィート)。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。